

研究主題 コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指す小学校外国語科指導の在り方に関する研究

－「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例とWE-CANシートの活用を通して－
【2年次／2年研究】

【研究担当者】 ◎中野 誉史 五十嵐 忠義 正木 啓一
佐藤 真 細川 潤

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I はじめに

本研究は、育成すべき資質・能力の正確な捉えの切り口として「『CAN-DOリスト』形式の学習到達目標の例」を作成し、授業づくりの切り口としての「WE-CANシート」を開発・活用することを通して、単元全体を俯瞰した指導構想の実現を目指すとともに、それを児童と共有することに取り組んできました。そして、この2つの手立てを通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成に向けた指導と児童の学習状況の見取りについて小学校教員の理解を深めることを目指しました。



「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標って何？

このリストは、「各学校において設定する、全ての子供に求められる外国語能力」の到達目標のことです。聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの5領域を用いて「何ができるようになるか」を表すものです。

（岩手県の中・高等学校においては、全ての学校で「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を設定しています。）

報告書
pp. 3-7

【作成する必要性】

学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編(2017)

学年ごとの目標は学習指導要領に設定されていません。これは「柔軟な指導」を考慮してのことであり、学年ごとの目標の設定は各学校に求められています。

「WE-CANシート」って何？

このシートは、「教員と児童の単元のゴールの共有」と「児童の学びの自覚」という視点から作成したものです。児童にとっては主体的な学びを生むと共に、教員にとっては単元をまとまりとした指導構想を生み出すことをねらいとしています。

報告書
pp. 8-16

【「単元のゴールを共有すること」の必要性】

単元など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現 → 具体的な課題等を設定

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編(2017)

単元で付けたい力を明確に設定し、それを児童と共有することが主体的な学びにつながります。

【「学びを自覚すること」の必要性】

各単元や各時間の指導に当たって、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編(2017)

自らの学びを自覚することで、主体的に学習に励むことが期待されます。

Ⅱ 学年ごとの五つの領域別目標の設定

【手立て①】「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例の作成

報告書 pp. 6-7

●●小学校 「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標（例）

年 間	Listening 聞くこと	Speaking 話すこと[発表]	Speaking 話すこと[やり取り]	Speaking 話すこと[発表]	Writing 書くこと
6 年 生	1 学期 2 学期 3 学期				
5 年 生	1 学期 2 学期 3 学期				

2年間の学習到達目標
(育成を目指す資質・能力)

6年生における
「年間の領域別学習到達目標」及び「学期ごとの領域別学習到達目標」

5年生における
「年間の領域別学習到達目標」及び「学期ごとの領域別学習到達目標」

上記の学習到達目標に対して、達成度合いを測る判断基準となる「ルーブリック」を併せて作成

●●小学校 外国語科 第6学年 「話すこと[発表]」ルーブリック

学習到達目標	評価標準	言語活動	ルーブリック		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
□ 好きなものや自分の誕生日について伝えることができる。	＜知識＞ I'm ~ like ~ can ~ My birthday is ~ について理解している。 ＜技能＞ 知識を使って、好きなものや自分の誕生日について、I'm ~ like ~ I can ~ My birthday is ~ などを用いて、伝えようとする内容を整理した上で、話している。	・5人1組で発表し合う。 ・聞き手は、分かったことをワークシートに書き込む。 Hello, I'm Yuta. I like dogs. I like math. I like soccer. I can run fast. My birthday is May 16th. Thank you.	A B C	「B」に加えて、好きなものの理由などを付け加えたり、聞いている人に質問を投げかけたりしている。	「B」に加えて、好きなものの理由などを付け加えたり、聞いている人に質問を投げかけたりしようとしている。

Ⅲ 単元というまとまりにおいて資質・能力の育成を目指す指導

【手立て②】「WE-CANシート」の開発・活用

報告書 p. 10

① 単元の目標（資質・能力）

CAN-DO リスト等から単元の位置付けを捉え、単元の内容に合わせて、単元で育成する資質・能力を明確にする。

② 単元のゴールとなる言語活動

目指す児童の具体的な姿をイメージし、単元における最終的な言語活動を明確にする。

③ 単位時間ごとのゴール

単元のゴールへのつながりを考え、単位時間における重点的な言語活動を明確にする。

④ 単位時間ごとの学びの足跡を英文で残させる欄

各単位時間の重点となる表現を明確にする。また、自己表現させる際のサポートする機会として活用する。

⑤ 単位時間・単元の振り返りを行わせる欄

各単位時間・単元の児童の学びの状況を確認する一助とする。

WE-CANシート

Unit6 What do you want to watch? Grade 6 No. () Name ()

単元目標	ゴール We Can!	振り回り	今日の感想
WE CAN ① 互いの得意なスポーツなどを聞いたり言ったりしよう。	I am good at ()	① 互いの得意なスポーツなどを聞いたり言ったりしよう。	今日の感想
WE CAN ② 国名を言ったり読んだりしよう。	I like ()	② 国名を言ったり読んだりしよう。	今日の感想
WE CAN ③ 見たい競技について聞いたり、たずねたりしよう。	Do you want to watch ()?	③ 見たい競技について聞いたり、たずねたりしよう。	今日の感想
WE CAN ④ 見たい競技についてたずねたり答えたりして、伝え合おう。	I want to watch ()	④ 見たい競技についてたずねたり答えたりして、伝え合おう。	今日の感想
WE CAN ⑤ 競技を聞いたり、何の競技を見たいかとその理由について伝え合おう。	What sports do you want to watch ()?	⑤ 競技を聞いたり、何の競技を見たいかとその理由について伝え合おう。	今日の感想
ゴール WE CAN オリンピック・パラリンピックの競技計画を作って、伝え合おう。		⑥ オリンピック・パラリンピックの競技計画を作って、伝え合おう。	今日の感想

今年度は、下記の四つの研究協力校の小学校5年生と6年生、それぞれ2単元ずつの実践を行いました。

令和元年度 研究協力校

盛岡市立見前南小学校、花巻市立太田小学校、金ケ崎町立西小学校、一関市立荻井小学校

実践例 (第6学年)

【単元名】 Unit 6 What do you want to watch? オリピック・パラリンピック (We Can! 2)

- 【目標】 ○ 国の名前や競技の名前について、言ったり読んだりしよう。(知識及び技能)
- 見たい競技とその理由などについて、友だちと伝え合おう。(思考力、判断力、表現力等)

【ゴールWe Can! (単元のゴールとなる言語活動)】

オリピック・パラリンピック観戦計画を作って、どの競技を見たいのか理由をふくめて伝え合う活動を設定

【本実践で作成・活用した「WE-CANシート」(児童記入後)】

児童の「今日の感想」

- 今日、勉強して、お互いの得意なスポーツを言うのは難しかったです。●●さんがスラスラ言えてすごいなと思いました。
- 今日、勉強して、国々の言い方を発音よくできました。次は、ボランティアをやりたいです。
- 今日、勉強して、ボランティアを進んでできたので良かったです。発音のし方もがんばりたいです。
- 今日、勉強して、積極的にやる事ができました。とくにランキングのとう票を数えるところです。
- 今日、勉強して、ランキングのときに、積極的にやる事ができました。次で最後なのでがんばりたいです。
- 今日、勉強して、みんなのみたいスポーツを知ることができました。最後だったけど、がんばってできました。

教員の指導構想・指導に対する有用性

- ①単元で身に付けさせたい資質・能力が明確になった!
- ②単元全体を見通した指導の構想が明確になった!
- ③各単位時間の重点をどこにおくべきか明確になった!
- ④これまでや今後の活動を確認する上で有効だった!
- ⑤「書く活動」に継続的に取り組ませることができ、英語の表現で学びの足跡を残せた!
- ⑥授業での活動の十分な確保や振り返りを共有する時間の確保が可能だった!
- ⑦教員間で指導構想を共有する上で効果的だった!



児童の学習状況の見取りに対する有用性

- ①児童一人一人の学習状況を把握できた!
- ②「主体的に学習に取り組む態度」を見取れた!
- ③個別対応をする上で有効だった!

児童の学習に対する有用性

- ①学習意欲や必要感を高められた!
- ②各時間がつながっていることを自覚できた!
- ③主体的に取り組む姿勢が生まれた!
- ④達成感、自分の成長を感じることができた!
- ⑤お助けシートとしての役割を果たした!
- ⑥自分の学習を振り返る視点を明確にもてた!
- ⑦自らの学習の課題を設定することができた!



【学習評価の意義】

学習評価は、学校における教育活動に関し、子供たちの学習状況の評価するものである。
 ・学習成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図る
 ・子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにする

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（2016）

学習評価の在り方として、「児童の学習改善につながるもの」、そして「教員の指導改善につながるものにしていくこと」が大切です。

以上のようなことを踏まえて、本研究では、「総括的評価」としての見取り、「形成的評価」としての見取り、それぞれと本研究の手立てとの関連を整理して示しました。

「WE-CANシート」については、児童の記述した感想から「主体的に学習に取り組む態度」を単元などのまともにおいて見取ることにより有効であると同時に、「書くこと」の言語活動に向けた形成的評価を「今日のWe Can」により行うことができます。

また、「『CAN-DOリスト』形式の学習到達目標の例」及び「ルーブリック」を基にパフォーマンス課題を設定することで、5領域を総合的に、そして資質・能力の3つの柱を総括的評価として見取ることができます。

【学習評価の現状】

- 学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多い
- 評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい
- 評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない

といったことが指摘されています。これらは、総括的評価と形成的評価とを混同していることから生じている課題とも言えます。

学習評価の充実

総括的評価と形成的評価

- ・ペーパーテストによる見取り
- ・パフォーマンス課題による見取り
- (参考: 「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例, ルーブリック)
- ・WE-CANシートによる見取り

- ・授業中の言語活動における見取り
- ・ワークシート等による見取り
- ・WE-CANシートによる見取り

VI 研究のまとめ

成果

【「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例】

- ① 各単元の位置付けを明確に捉えられた。

【WE-CANシート】

- ① [作成] 単元全体を見通した指導構想ができた。
また、指導の焦点化や重点化を図ることができた。
- ② [活用] 児童に単元のゴールを明確に把握させることができた。また、児童の主体的に学びに向かう姿勢を生み出すことができた。
- ③ [活用] 児童に学びの自覚を促すことができた。
- ④ [活用] 児童に「書くこと」の活動に無理なく自然な流れで継続的に取り組ませることができた。
- ⑤ [活用] 児童の記述から「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることができた。

今後に向けて

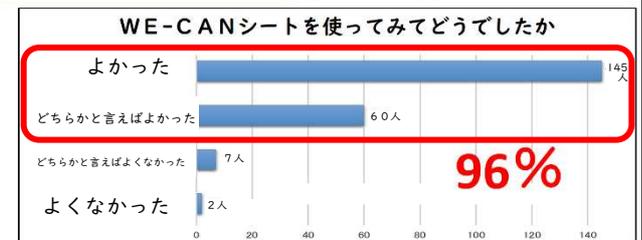
【「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例】

- ① 作成したものをより汎用性があり実用的なものになるよう、今後も適宜改良を進めていく。

【WE-CANシート】

- ① 作成した後に変更したい状況が生まれたときの柔軟性をシートに持ち合わせるものとする。
- ② 保管の仕方に工夫が必要である。

児童アンケート結果 (N=214)



本研究で取り組みました研究成果（報告書，補助資料，「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例及び対応したルーブリック[Excel形式]，WE-CANシート[Excel形式]）は，下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。ぜひご活用ください。

■研究成果物の掲載アドレス <https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/106gaikoku.html>

